



Martin Luther, the Reformation and its Results

#HereIStand

www.here-i-stand.com

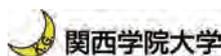
ポスター展「#HereIStand 我ここに立つー マルティン・ルター、宗教改革とそれがもたらしたもの」

今から500年前の1517年10月31日、当時宗教学教授であったマルティン・ルターがヴィッテンベルクの城内教会の扉に「95箇条の論題」を提示したと伝えられています。このヴィッテンベルクの「論題の提示」は宗教改革の始まりと位置づけられています。その後続く広範な宗教的、文化的、政治的な結果を見れば、ルターの宗教改革は宗教上だけでなく、世界史にその名を刻む文化史的な大事件と言えるでしょう。

2017年10月9日(月・祝)～13日(金)
関西学院大学 神戸三田キャンパス
アカデミックコモンズ インフォメーションホール

2017年10月16日(月)～20日(金)
関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
大学図書館 エントランスホール

主催：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、関西学院大学キリスト教と文化研究センター(TEL:0798-54-6019) 共催：大阪日独協会



Landesmuseum für Vorgeschichte Halle
Stiftung Luthergedenkstätten in Sachsen-Anhalt
Deutsches Historisches Museum
Stiftung Schloss Friedenstein Gotha



The exhibition is supported by the German Federal Foreign Office as part of the Luther decade.

#HereIstand 我ここに立つーマーティン・ルター、宗教改革とそれがもたらしたもの

1517年のことでした。これが口火となり歴史的展開をみせるのが宗教改革と呼ばれるものです。本展では、この時代を7章に分けて展示しています。

マルティン・ルターの **起源** は中世末期 **当時の世界** にあります。そのような時代を背景にして、宗教改革による **覚醒** が始まりました。ルターは、聖書を唯一の拠り所とする教義を提唱しました。ローマ・カトリック教会を批判し、中世の社会秩序に根本から疑問を投げかけました。印刷技術という新しいメディアにより、宗教改革者

の存在はすぐに知れ渡ることとなりました。当初は聖書のドイツ語訳の制作など **成果** を挙げましたが、西洋の教会の分裂は社会的な **危機** へと発展していきます。宗教的、政治的な争いから憎しみと暴力が生まれました。同時に、宗教改革は社会秩序を変えました。**違う視点** から見てみると、これまで長い間忘れられていましたが、実は男女の役割というジェンダー問題にも変化が起きていたことがわかります。宗教改革は、**後世** に多様なプロテスタンティズムを残し現在に至っています。

起源

マルティン・ルターは商人の家に生まれました。宗教改革者になる以前、ルターは修道士でしたが、ルターの修道会、聖アウグスティノ修道会は彼をヴィッテンベルクという小さな城下町の教授に任命しました。ここで新しく設立された大学はルターの在職中に宗教改革の重要な拠点となりました。

覚醒

マルティン・ルターの95箇条の論題は、私たちが今日「宗教改革」と見なす歴史の始まりです。ルターは贖宥状を批判しました。ルターの論題は神聖ローマ帝国も巻き込みました。ルターは皇帝の前で帝国議会に弁明しなければなりません。ここでも彼は自分の論題を撤回しませんでした。プロテスタントの500年の歴史の中で「ルターの論題の提示」と彼の言葉とされる「我ここに立つ、他になしあわず。」という名言は勝利のシンボルとなりました。

危機

神聖ローマ帝国皇帝カール5世は紛争で常に帝国外にいたため、プロテスタントは邪魔されることなく足場を固めることができました。改革派とルター派は、教会内で絵画をどう扱うかで対立しました。改革派は教会内を一扫し、ルター派は絵画を教訓を伝えるための道具とみなして容認しました。信者それぞれが聖職者であるというルターの考えは広まり、例えば、農民は聖書の言葉を使って平等を要求しましたが、ルターはそのような考えには正当性がないと退けました。

後世

今日、「プロテスタント」と呼ばれる信仰グループは多岐にわたります。一部はアメリカへと渡りました。自身の信仰に従って生きる場所をヨーロッパでは見つけることができなかったからです。18世紀、バプテスト派はアメリカで最も大きな教会の1つとなりました。マルティン・ルターと同姓同名のマーティン・ルーサー・キング・ジュニアは公民権運動の指導者であり、最も有名なバプテストです。

当時の世界

15世紀に新世界発見等があり、16世紀初頭のヨーロッパ的見地から言えば、世界はやっと発見されたばかりでした。この頃、印刷術という新技術や宗教改革があり、現在では中世から近世への過渡期と見ることができます。信者は贖宥状を買えば、現世の罪に対する罰から逃れることができると言われていました。

ルターの時代には、今日あるようなドイツという国はまだありませんでした。「ドイツ国民のための神聖ローマ帝国」は国民国家ではなく、様々な諸侯の集まりで、皇帝がその頂点にいました。

成果

宗教改革は歌や個人の聖書講読によりすぐに広がりました。教会の伝統は聖書を手にした人々によって問い直されました。様々な新しい宗派が生まれました。宗教改革は学者のネットワークで起こり、情報交換は手紙で行われました。

違う視点

宗教改革の時代は両性の役割が大きく変わった時代でもありました。聖職者の結婚は、聖職者の婚姻の禁止、独身制に対する明確な抵抗でした。同時に数年の間に主婦や母親以外の女性の役割もひっそりと広がっていきました。このような断続的發展は長い間忘れられていましたが、今日では歴史研究によって女性たちの生涯が再び脚光を浴びています。



展望

1517年とマルティン・ルターは、歴史を振り返る上で重要な年号、人物です。しかし、それらに対する受け止め方は、後に続く世代ごとの判断に委ねられてきました。本展では、国民的英雄としてのマルティン・ルター像から離れて、彼の両面価値的な姿に迫ろうとしています。

宗教改革は神と人間の関係性を変えました。教会制度を通じて救いへと向かうことが祝福を得る唯一の道であるという、それまでの信仰のあり方に疑問を投げかけ、信仰を個人の問題としたのです。以来500年の間、神の真実の言葉を探して、多くのプロテスタント教派が生まれました。

宗教改革はヨーロッパを変えました。それまでの諸制度は揺るぎ崩壊し、新たな制度へと変化していきました。境界線は変わり、国教会

が生まれ、宗教上の緊張関係は壊滅的な紛争を引き起こしました。宗教改革の歴史は、信仰の異なる者を排除、迫害、殺害していった傷つけ合いの歴史でもあるのです。歴史は、政治が宗教だけに誘導されるようなことがあってはならないということを私達に教えています。

私達は今日、多面的な社会に生きています。宗教改革の意味についてオープンな議論が行われています。権力と有力者に対しても畏縮することのなかったマルティン・ルター。彼の生き様からも示唆を得ることができるのではないのでしょうか。

www.here-i-stand.comで本展をさらに詳しく紹介しています。